

## 社会科（地理的分野）調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○○</span> </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解できるように、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けられるように、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連について、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めるために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul> <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○分野の学習において課題（問い）を設定し、その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるように、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料の配置、数、種類などに、どのような工夫が見られるか。</li> <li>○事例の選択、資料の取り上げ方など、学習効果を高めるために、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習効果を高めるために、表記・表現（見出し、記号、用語、脚注等）に、どのような工夫が見られるか。</li> </ul>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1>新しい社会 地理</h1>	2 東 書
内 容	<p><b>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きで1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「チェック&amp;トライ」の流れで構造化し、学習内容を定着できるように工夫されている。</li> <li>○資料の読み取りなどの地理学習の基礎的な技能を系統的に習得する「スキル・アップ」と、身に付けた技能を活用するコーナーを設け、定着できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の章末部には「ベン図」「ウェビング」といった、多様な思考ツールを活用して学習内容を考察する「まとめの活動」を設け、思考を整理し、学びを深められるように工夫されている。</li> <li>○1単位時間の学習内容をまとめる「チェック&amp;トライ」を設け、全編を通して「地理的な見方・考え方」を意識して学習できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の諸地域の学習の導入や各州のまとめ、コラム「未来にアクセス」、「持続可能な地域の在り方」の学習等で「持続可能な開発目標」を取り上げ、現代的な諸課題を意識・理解しながら、学習を進められるように工夫されている。</li> <li>○「持続可能な地域の在り方」の学習では、学習していたことを振り返りながら、地域の課題や変容に注目したり、地域の将来像を提案したりする活動を充実させ、主体的に社会の形成に参画する資質や能力を養えるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の導入部で単元全体を貫く「探究課題」を立て、「まとめの活動」でその解決を補助する「探究のステップ」に取り組むことで、課題解決的な学習ができるように工夫されている。</li> <li>○小集団での参加型学習を行う「みんなでチャレンジ」や「導入の活動」、「まとめの活動」などを設け、対話的な学習を実践することによってより深い学びにつながるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「もっと知りたい」「もっと解説」「未来に開設」を掲載し、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。</li> <li>○導入・展開・まとめの学習段階に応じて、多彩なQRコードが設けられ、学習効果が高まるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての文字に、UDフォントを使用している。色覚特性がある生徒にも見やすい色が使用されている。難解な用語について、巻末に用語解説を設けている。</li> <li>○見開きページごとに学習課題が設けられている。導入部、展開部、終結部の形で構造化されたレイアウトとなっている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「導入の活動」で単元全体を貫く「探究課題」を立て、1単位時間ごとに「学習課題」を解決し、思考ツールを使った「まとめの活動」で「探究課題」を解決するという学習の流れで構成されている。</li> <li>○他分野と関連している資料や特設ページには、「分野関連マーク」が設定され、歴史・公民や他教科との関連を図った学習が展開できるように工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">中学社会 地理 地域にまなぶ</h1>	<div style="text-align: center;">17</div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きで1単位時間を原則とすることで学習の見通しが立てやすく、本文と資料とのバランスを考え、資料を読み解く手掛かりを示す工夫がされている。</li> <li>○生徒の興味・関心を広げる学習コラム「地理の窓」や地理的な技能が確実に定着するコーナー「地理の技」を設け、「地理的な見方・考え方」を働かせた学びができるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○三分野間の関連箇所を示すことで、各分野それぞれの「見方・考え方」の違いに気付かせ、更に深い総合的な理解へ導く工夫がされている。</li> <li>○「身近な地域の学習」では、生徒自らが地域調査に臨めるような工夫だけでなく、地域の伝統文化を大事にしている事例や、地域で進んでいる多文化共生の事例を取り上げ、学習を深めていく工夫がされている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界・日本地誌では、地域で進んでいる多文化共生の姿や地域の伝統文化を大事にしている事例を取り上げ、これからの社会の在り方に関連付けて考察することができるよう工夫されている。</li> <li>○「地域のあり方」の単元における地域の課題の見つめ直しや課題の解決方法の考察、「特設・クロスワード」で取り上げられる話題についての考察を通して、社会への関心を高め、自ら行動していこうとする態度を養えるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章の学習を見通す「導入ページ」、「本時ページ」、章・節の学習を振り返る「学習のまとめと表現」、視点を変えて学習内容を捉え直す「特設ページ」と単元が構造化されており、「問い」を軸にして課題解決的に追究していくよう工夫されている。</li> <li>○「確認／表現」コーナーでは、学習したことの整理や表現活動を行うことで1時間の学習を振り返り、生徒が他者と意見交流したり、自ら学び、自ら考える学習に取り組んだりすることにより、学びが深まるように工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真や地図、グラフ等が大きく提示され、地理への興味・関心が高まるように工夫されている。</li> <li>○世界地誌の学習では、SDGsの17の開発目標と関連する地球的課題を扱っており、持続可能な視点を意識しながら学習が進むように工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字はUDフォントによる黒文字を使用している。難解な用語や補足説明の必要な箇所について、側注・巻末に用語解説を設けている。</li> <li>○見開きページごとに学習課題が設けられている。本文と資料の関連を番号で示すことで、本文と資料が結びつきやすくなるよう工夫されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入部で「学習の見通し」や「見方・考え方」を提示し、学習の見通しが立てやすく、各章末での「学習のまとめと表現」では、基礎・基本の定着や意見をまとめて表現し話し合う活動を行い、段階的に学習が進められるように工夫されている。</li> <li>○三分野の学びを関連付けるために「関連マーク」が設定されており、三分野の学びを関連させ、系統的な学習が展開できるように工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>社会科 中学生の地理</h1>	4 6 帝 国
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きの1単位時間を、導入、学習課題、本文、「確認しよう」「説明しよう」の展開で構造化され、基礎的・基本的な知識及び技能が理解できるよう工夫されている。</li> <li>○資料の読み取りやグラフの作成等の力を伸ばすために「技能をみがく」のコーナーが設けられ、「地理的な見方・考え方」を働かせる上で必要な基礎的な技能が習得できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○写真や図版、本文が密接に関連しているため、地理的事象の背景や因果関係を読み取ることができ、「地理的な見方・考え方」を自然と働かせられるよう工夫されている。</li> <li>○各章・節末の「学習を振り返ろう」では、章・節の学習で得た知識を生かして、「地理的な見方・考え方」を働かせつつ、単元を貫く問いに対して思考ツールを用いて、自分の考えを整理・構造化できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コラム「未来に向けて」が掲載され、持続可能な社会を実現するための人々の取組を示すことで、SDGsへの関心を高め、社会に対し生徒自身がどのように参画していくかを発展的に考えることができるよう工夫されている。</li> <li>○「地域のあり方」の単元では、地域の課題の分析とその解決に向けた構想に取り組むことで課題を「自分ごと」として捉え、主体的に社会参画する態度を養えるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元を貫く「章・節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、単元の最後の「学習を振り返ろう」というように問いが構造化されており、課題解決的な学習ができる構成になるよう工夫されている。</li> <li>○「アクティブ地理」において、地域に見られる課題を考察し、解決への取組を考えるパフォーマンス課題が設定されており、学習した知識・技能を多面的・多角的に活用することができるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現地の人の「声」では様々な立場の人の考えが紹介されており、地理への興味・関心が喚起されるように工夫されている。</li> <li>○学習内容の習得や調べ学習を支援するコンテンツが設けられており、生徒の個別最適な学びを支援できるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字はUDフォントを使用している。用語解説や関連資料について、本文のページの側注に設けている。</li> <li>○学習内容の変化や関連性を考察しやすいよう、写真や地図、雨温図などの位置が固定化されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○章・節・各本文ページそれぞれの冒頭に「単元を貫く問い」が設けられており、学習の見通し・振り返り活動の基本的な流れが示され、見通しをもった学習活動につながるよう工夫されている。</li> <li>○「関連マーク」で三分野や他教科と関わりや、「地図帳活用マーク」で地図帳も活用した学習を行い、より深い学びが得られるように工夫されている。</li> </ul>	

書名 項目	<h1>中学社会 地理的分野</h1>	1 1 6 日 文
内 容	<p><b>&lt;知識及び技能が習得できるようにするための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見開きで1単位時間とし、学習課題が明示されている。基礎的な知識及び技能の定着をねらいとした「確認」コーナーや「表現」コーナーが設けられ、文章化・言語化できるように工夫されている。</li> <li>○スキルUPでは、地理的分野の学習に必要な地理的技能を6種類に整理し、生徒の発達段階に応じて地理的技能を系統立てて習得できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○トライ・スキルUP・資料活用のコーナーで、思考力、判断力、表現力等の向上を図る場面を設定し、随所で生徒が自分の言葉で表現できるように構成されている。</li> <li>○まとめと振り返りでは、習得した知識を活用し、生徒が単元を貫く問いについて自分の考えをまとめ、「議論してみよう」で地理的な諸課題について考察したことを論理的に説明したりするなど、言語活動に関わる学習ができるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の諸地域や日本の諸地域の章（節）の最後にある「議論してみよう」や「持続可能な地域を目指して」のコラムの設置など、教科書全体を通して持続可能な社会について考えることができるよう工夫されている。</li> <li>○教科書全体を通して、現代的な諸課題や伝統・文化、多様性などについて世界や日本で「今」起きている出来事を掲載しており、多様な地理的事象に対する理解を深めることができるよう工夫されている。</li> </ul> <p><b>&lt;課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各単元の導入ページで単元全体を貫く探究課題を立て、「まとめと振り返り」のページでは、その解決を補助する思考ツールの活用や段階を踏まえた思考の整理に取り組むことで、課題解決的な学習ができるように工夫されている。</li> <li>○「資料活用コーナー」や「議論してみよう」など、読み取ったことを発表し合う場面や、生徒の多様な回答が可能な問いや活動に「学び合いマーク」がつけられており、主体的・対話的な活動ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真や地図、グラフ等を大きく掲載することで、地図への興味・関心が高まるように工夫されている。</li> <li>○ICT機器を活用して利用できる「教科書QRコンテンツ」が設けられ、学習効果が高まるよう工夫されている。</li> </ul>	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文字はUDフォントを使用している。巻末に用語解説を設け、地理的用語を5種類に区分して解説している。</li> <li>○見開きページごとに学習課題を設けている。導入資料、学習課題、本文図版、確認等が統一されたレイアウトで配置されている。</li> </ul>	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「導入の活動」で単元を貫く「問い」を立て、1単位時間ごとに「学習課題」を解決し、単元の終わりには「まとめと振り返り」が設けられ、基礎・基本の定着と学習内容を深められるよう構成が工夫されている。</li> <li>○章の導入ページや「連携コーナー」で小学校での既習事項や他分野の内容を掲載することで相互に連携・関連させて学習できるよう工夫されている。</li> </ul>	

社会科（地理的分野） 調査資料 2  
 ○内容別ページ数等

内容	東書	教出	帝国	日文
A 世界と日本の地域構成	26	20	24	24
(1) 地域構成	26	20	24	24
B 世界の様々な地域	110	106	102	104
(1) 世界各地の人々の生活と環境	24	18	19	18
(2) 世界の諸地域	86	88	83	86
C 日本の様々な地域	136	157	160	163
(1) 地域調査の手法	12	14	12	14
(2) 日本の地域的特色と地域区分	27	26	26	24
(3) 日本の諸地域	86	107	117	114
(4) 地域の在り方	11	10	11	11
索引	8	10	4	8
資料ページ	7	8	11	11
総ページ数※目録に記載されたページ数	293	305	310	318
QRコードの数	132	28	69	152

※総ページ数には、中表紙や巻末資料も含まれているため合計と一致しない。

○地域の取り上げ方

B (2) 「世界の諸地域」で取り上げている主題

	東書	教出	帝国	日文
① アジア	経済発展	急速な経済発展	急速な経済成長	人口や経済発展
② ヨーロッパ	国家間の統合	国々の結びつき	国どうしの結びつき	国境をこえた統合
③ アフリカ	国際的な支援	国際協力や国際支援	特定の産物に頼る経済	自立のための開発と国際協力
④ 北アメリカ	移民と経済	先進的で多様な産業	巨大な産業	世界に影響を与える産業
⑤ 南アメリカ	開発と環境保全	自然破壊と都市の人口増加	農地や鉱山の開発	開発と環境保全
⑥ オセアニア	他地域との結びつき	他地域との関係の強化	他地域との関係	多文化社会

C (1) 「地域調査の手法」で取り上げている地域、主題、調査・まとめ

	東書	教出	帝国	日文
地域	神戸市	名古屋市	東京都練馬区大泉地域	京都市伏見区
主題	防災	防災	人口と農業	産業
調査・まとめ	地形図、空中写真、統計資料、インターネット、文献調査、野外観察、聞き取り調査、ルートマップ、スケッチ、写真、表、図、班による発表	地形図の読み取り・比較、現地の観察、聞き取り調査、統計資料、文献資料、博物館や資料館、主題図やグラフ、イラストマップ、班による発表	野外観察、聞き取り調査、地形図や地図、統計資料、景観写真、インターネット、グラフ、主題図、班による発表	地形図、デジタル地図、野外観察、聞き取り調査、文献資料、統計資料、インターネット、地図、グラフ、レポート、壁新聞、プレゼンテーションソフト、班による発表

C (3) 「日本の諸地域」の考察の仕方とページ数 ※ ( ) はページ数

	東書	教出	帝国	日文
九州地方	自然環境 (12)	自然環境とその保全 (14)	自然環境 (16)	自然環境 (16)
中国・四国地方	交通や通信 (12)	人口集中や人口減少 (14)	交通や通信 (16)	交通・通信 (16)
近畿地方	人口や都市・村落 (12)	歴史的な視点 (14)	環境保全 (18)	歴史的背景 (16)
中部地方	産業 (12)	産業 (14)	産業 (16)	産業 (16)
関東地方	交通や通信 (12)	交通・通信 (14)	人口や都市・村落 (16)	人口や都市・村落 (16)
東北地方	生活・文化 (12)	地域の伝統文化と産業の変化 (14)	生活・文化 (16)	持続可能な社会づくり (16)
北海道地方	自然環境 (12)	自然環境と関連する産業 (14)	自然環境 (16)	自然環境 (16)

C (4) 「地域の在り方」における地域的な課題の扱い方

	内容
東書	広島市を例に、地域の課題を捉え、将来像を考え、発信する。
教出	水俣市を例に、地域の課題を調査し、その解決方法について考え、伝える。
帝国	神戸市を例に、地域の疑問を調査し、地域の課題や解決策を考え、提案する。
日文	宮崎市を例に、地域の課題を捉え、自分たちにできることを考え、伝える。

○埼玉県地理的事象 ※県名のみの場合を除く

	内容
東書	過密地域（川口市）と過疎地域（東秩父村）の人口ピラミッド、内陸型の工業地域の写真（久喜市）、高速道路沿いに広がる畑作地域の写真（三芳町）、多くの観光客でにぎわう花畑の写真（秩父市）、近郊農業のコラム（熊谷市）
教出	さいたま新都心の写真（さいたま市）、ブルーベリー狩りを楽しむ観光客の写真（美里町）、首都圏外郭放水路の写真（春日部市）
帝国	川越の町並みのイラスト（川越市）、日本最大級のショッピングセンターの写真（越谷市）、最高気温を示す看板の写真（熊谷市）、首都圏外郭放水路の写真と地図（春日部市）
日文	なし

○北方領土・竹島等の領土に関する記述

	北方	竹島	尖閣	東西南北端	内容
東書	○地図 写真	○地図 写真	○地図 写真	○地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道東方の歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は北方領土とよばれ、根室市などに属する日本固有の領土です。しかし、現在はロシアが不法に占拠しており、日本は抗議を続けています。</p> <p>〔竹島〕竹島は、島根県隠岐の島町に属し、隠岐諸島の北西、約 150 km に位置する日本固有の領土です。しかし、韓国が不法に占拠しているため、日本は抗議を続けています。</p> <p>〔尖閣諸島〕尖閣諸島は、沖縄県石垣市に属する日本固有の領土で、中心である魚釣島は、石垣島の北、約 170 km に位置します。日本が有効に支配をしているため、領土問題はありますが、中国や台湾が領有権を主張しています。</p> <p>コラム「変化し続ける国土面積（西之島）」コラム「水産資源にめぐまれた竹島」コラム「貴重な自然が残る北方領土」コラム「資源が期待される尖閣諸島」</p>
教出	○地図 写真	○地図 写真	○地図 写真	○地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道の東に位置する歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島を北方領土と呼びます。北方領土は 1945年の第二次世界大戦の終結後にソ連に占領されました。終戦時には北方領土には約17000人の日本人が生活していましたが、強制退去させられました。北方領土はソ連の解体後も現在に至るまで、ロシア連邦によって不法に占拠されています。日本政府は、ロシア連邦政府に対し、日本固有の領土である北方領土の返還を求め続けていますが、いまだに実現されていません。一方で、1992年に始まった北方領土へのビザなし交流など民間での友好的な結びつきは続いています。1922年から続く北方領土へのビザなし交流は2022年9月以降、ロシアにより停止されています。</p> <p>〔竹島〕竹島周辺では、江戸時代の初めから日本人が漁業を行ってきました。1905年に政府は、竹島を閣議決定に基づき島根県に編入し、日本固有の領土としました。1952年以降、韓国が竹島を自国の領土として主張し、現在まで不法に占拠し続けています。日本はこれに抗議を重ねるとともに、国際社会の場での話し合いを提案していますが、韓国は受け入れていません。</p> <p>〔尖閣諸島〕尖閣諸島は、1985年に沖縄に編入された日本固有の領土です。第二次世界大戦後には、アメリカ合衆国の施政の下に置かれたことが、1971年に沖縄返還協定が結ばれ、翌年日本に復帰しました。しかし、1970年代から、周辺海域に埋蔵されているとされる資源をめぐり、中国が領有を主張し始め、2012年、日本は島々の大半を国有化しました。近年、中国船が尖閣諸島周辺の日本の領海や接続水域にたびたび侵入する事態が生じています。</p> <p>写真「面積が拡大した西之島」コラム「日本の最南端をめぐる問題」写真「ビザなし交流で根室港に到着したロシア側からの訪問団」年表「北方領土に関する主なできごと」</p>
帝国	○地図 写真	○地図 写真	○地図 写真	○地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道の北東部にある歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島は、北方領土とよばれ、北海道根室市などに属する日本固有の領土です。1855年に、日本とロシアの国境を択捉島とウルップ島の間で確認してから、北方領土をほかの国の領土とする条約が結ばれたことはありません。北方領土の近海は水産資源が豊かで、かつて多くの日本人がこれらの島に住んでいました。しかし、北方領土は1945年に、日本との条約を無視して一方的に侵攻してきたソビエト連邦に占領され、日本人は立ちのきさせられました。ソビエト連邦は、サンフランシスコ平和条約に署名せず、現在までロシアが不正に占拠した状態となっています。日本は、北方領土の返還に向けてロシアと平和条約を結ぶため、交渉を続けています。</p> <p>〔竹島〕日本海にある竹島は、島根県隠岐の島町に属する日本固有の領土です。17世紀には現在の鳥取県の人々が漁を行っており、1905年に明治政府が島根県への編入を内閣で定めて、自国の領土とする考えを公式に示しました。しかし、サンフランシスコ平和条約で竹島に対する主張を退けられた韓国は、1952年に海洋への権利を唱えて一方的に公海の上に境界を設け、竹島に海洋警察隊や灯台を置いて、不法に占拠しています。日本は国際法に基づいて抗議し、国際司法裁判所での話し合いをたびたび呼びかけていますが、韓国が応じていません。</p> <p>〔尖閣諸島〕東シナ海にある尖閣諸島は、沖縄県石垣市に属する日本固有の領土です。明治政府が、ほかの国の支配が及んでいないことを慎重に確認したうえで、1895年に沖縄県への編入を内閣で定めて、自国の領土とする考えを公式に示しました。その後、一時は島で 200人以上が暮らし、かつおぶし工場もつくられました。サンフランシスコ平和条約でも、南西諸島の一部として日本の領土とされました。尖閣諸島をほかの国の領土とする条約が結ばれたことはなく、日本政府による管理も及んでいないため、ほかの国との間で解決すべき領有をめぐる問題はあります。尖閣諸島では、1960年代には、原油などの資源が周辺の海底にある可能性が注目され、1970年代に入ると、中国などが領有権を主張するようになりました。日本は尖閣諸島を平穩に維持、管理するために、2012年にその大半を国有地化しました。</p> <p>コラム「護岸工事によって守られた沖ノ島」写真「活発な噴火を続ける西之島」写真「日本国民と北方領土に住むロシア人との交流」コラム「漁業が盛んだった昔の竹島」</p>

	北方	竹島	尖閣	東西南北端	内容
日文	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	<p>〔北方領土〕北方領土は、歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島からなる日本固有の領土です。面積は合計約5000km<sup>2</sup>もあり、福岡県や千葉県とほぼ同じ広さです。日本は18世紀ごろから本格的な開発を始め、1855年の日露通好条約で、日本の領土であることが確認されました。周辺の海域は、こんぶやかになどの水産資源が豊富で、かつては多くの日本人が漁業をしながら生活していました。しかし、1945年の第二次世界大戦後にソ連に占領され、ソ連解体後もロシアが不法に占拠しています。ソ連に占領されるときに、当時住んでいた日本人はふるさとを追われ、現在、北方領土に日本人は住んでいません。日本は、北方領土の返還をロシアに強く要求していますが、いまだに実現していません。</p> <p>〔竹島〕竹島は、本州から約200km 離れた日本海にある日本固有の領土です。竹島周辺は豊かな漁場で、17世紀初めには日本人が漁業などに利用していました。1905年には国際法に従って島根県に編入されました。ところが1952年から、韓国が、一方的に自国の領土であると主張して竹島を取り込み、警備隊員を常駐させたり、施設を作ったりして、不法に占拠しています。日本は、韓国に対して何度も厳重に抗議しています。</p> <p>〔尖閣諸島を取り巻く情勢〕尖閣諸島は、石垣島から約170kmはなれた東シナ海にあります。1895年に日本が自国の領土であることを宣言して、沖縄県に編入しました。また、サンフランシスコ平和条約でも日本の領土とされ、このことに周辺の国々からの反対はありませんでした。その後も、日本固有の領土として管理されてきており、尖閣諸島には領土問題は存在していません。ところが、東シナ海に石油が埋蔵されている可能性が指摘され、1970年代になって、中国が尖閣諸島の領有権を主張するようになりました。最近では中国の船が日本の領海にたびたび侵入してくるため、日本は、中国に厳重に抗議し、領土の保全に取り組んでいます。</p> <p>コラム「沖ノ島島を守るために」地図「北方領土付近の国境の変化」写真「竹島に関する資料を展示する「竹島資料室」」写真「尖閣諸島の日本の領海に侵入する中国の船」写真「北方領土・竹島・尖閣諸島などに関する資料を展示する国立の施設「領土・主権展示館」」</p>